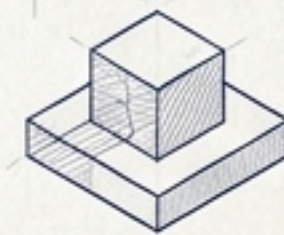


次世代知財アーキテクチャの設計図

AIエージェント（Patsnap / TokkyoAI）がもたらす
特許実務のパラダイムシフトと統合導入モデル



個別タスクの支援から、 目的達成の自律実行へ

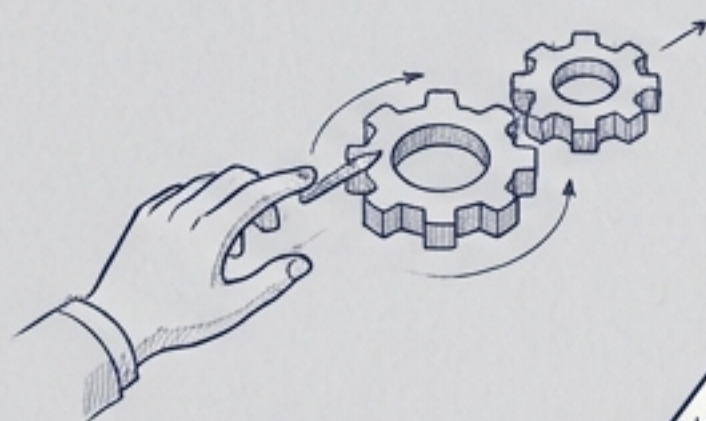
従来型生成AI

基本思想: 工程支援型 (人間が決めた工程の補助)

AIの役割: 高度な補助者

ワークフロー: 人間主導 (対象文献・検索式は人間が設定)

透明性: AI出力の確認・修正が中心



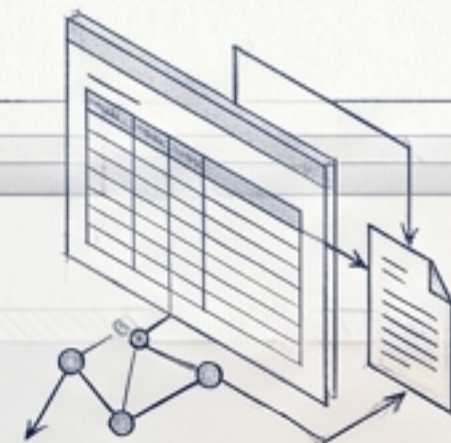
AIエージェント型

基本思想: 目的達成型 (AIが調査計画を逆算して組み立てる)

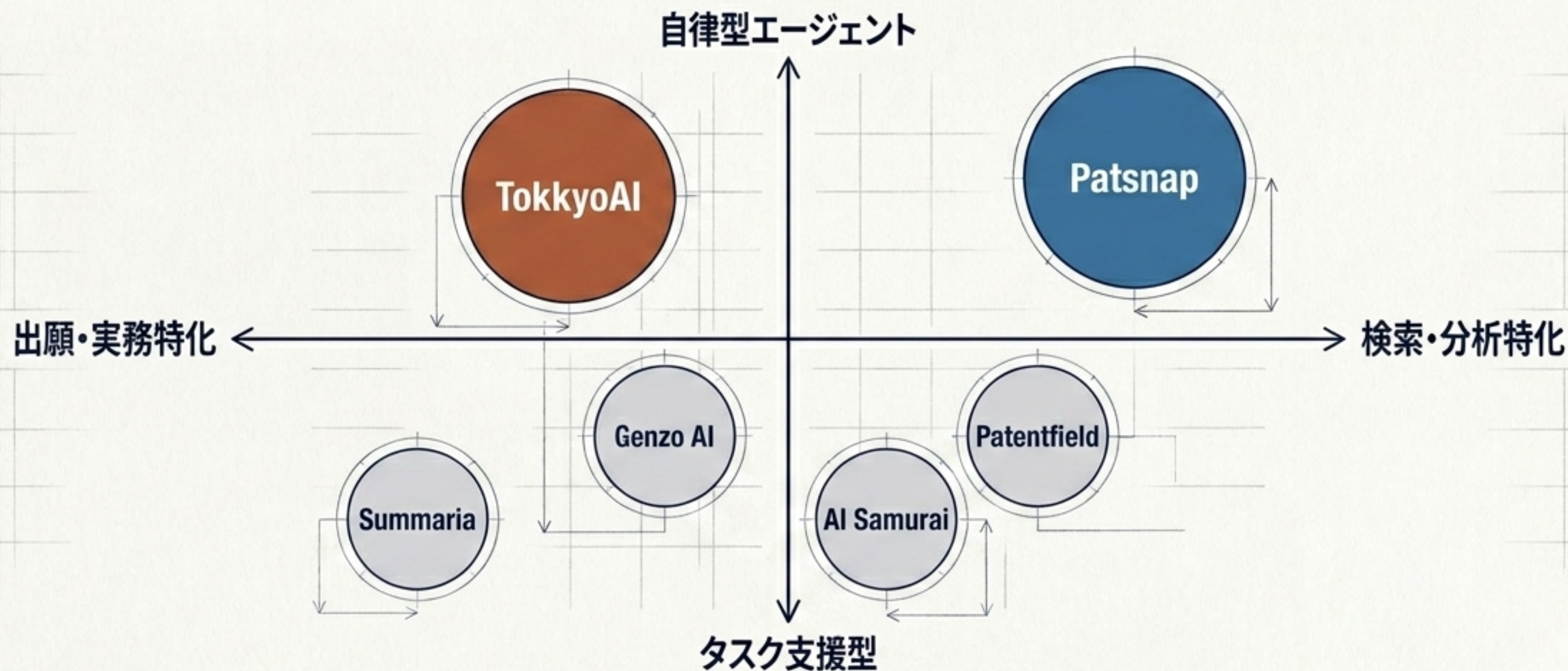
AIの役割: 自律的な調査員・アナリスト
自律的な調査員・アナリスト

ワークフロー: 多段階・連続実行 (検索→分析→比較→文書化)

透明性: 検索式、根拠文献、比較表などの思考プロセスを提示

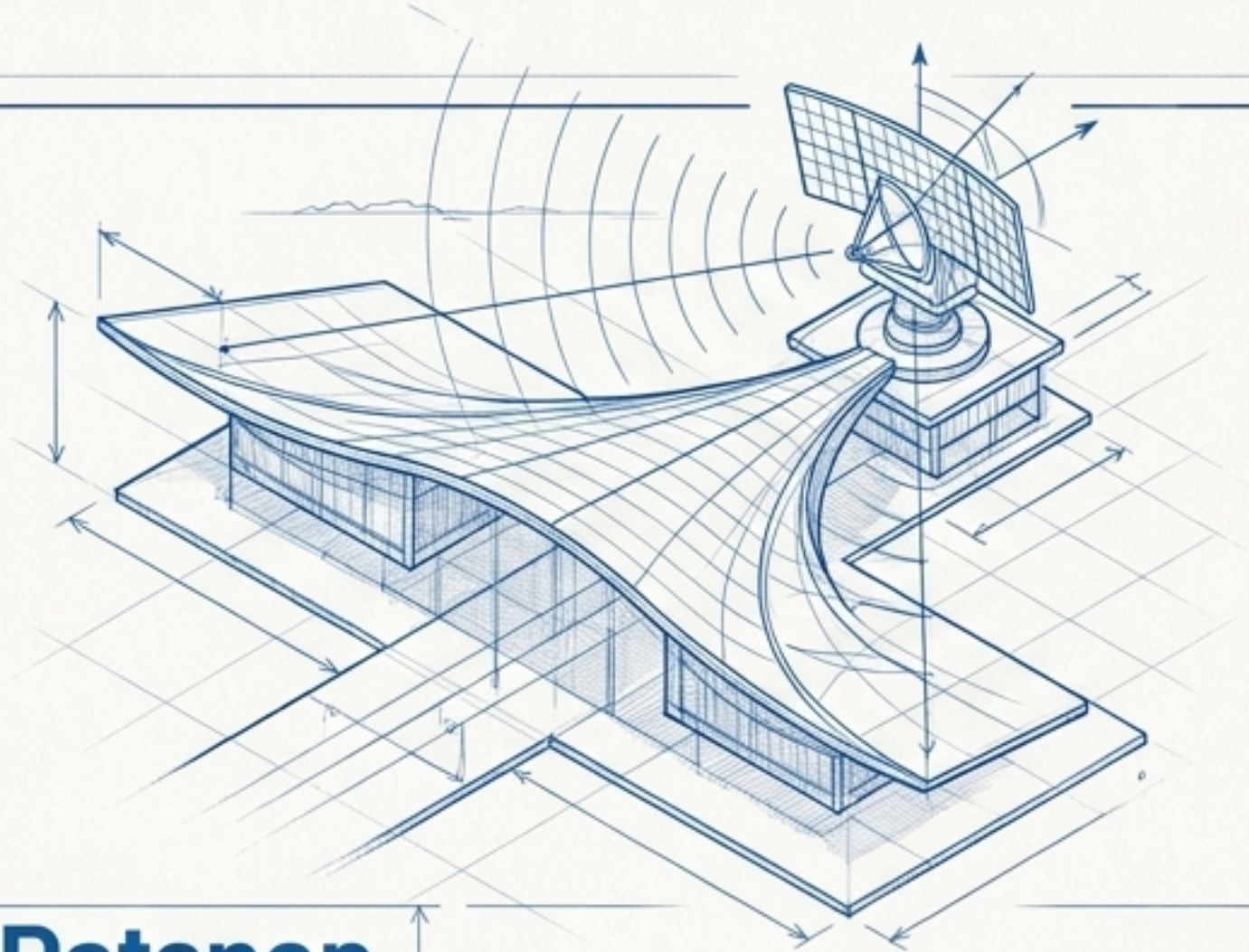


乱立する「特許AI」市場の ポジショニング・ランドスケープ



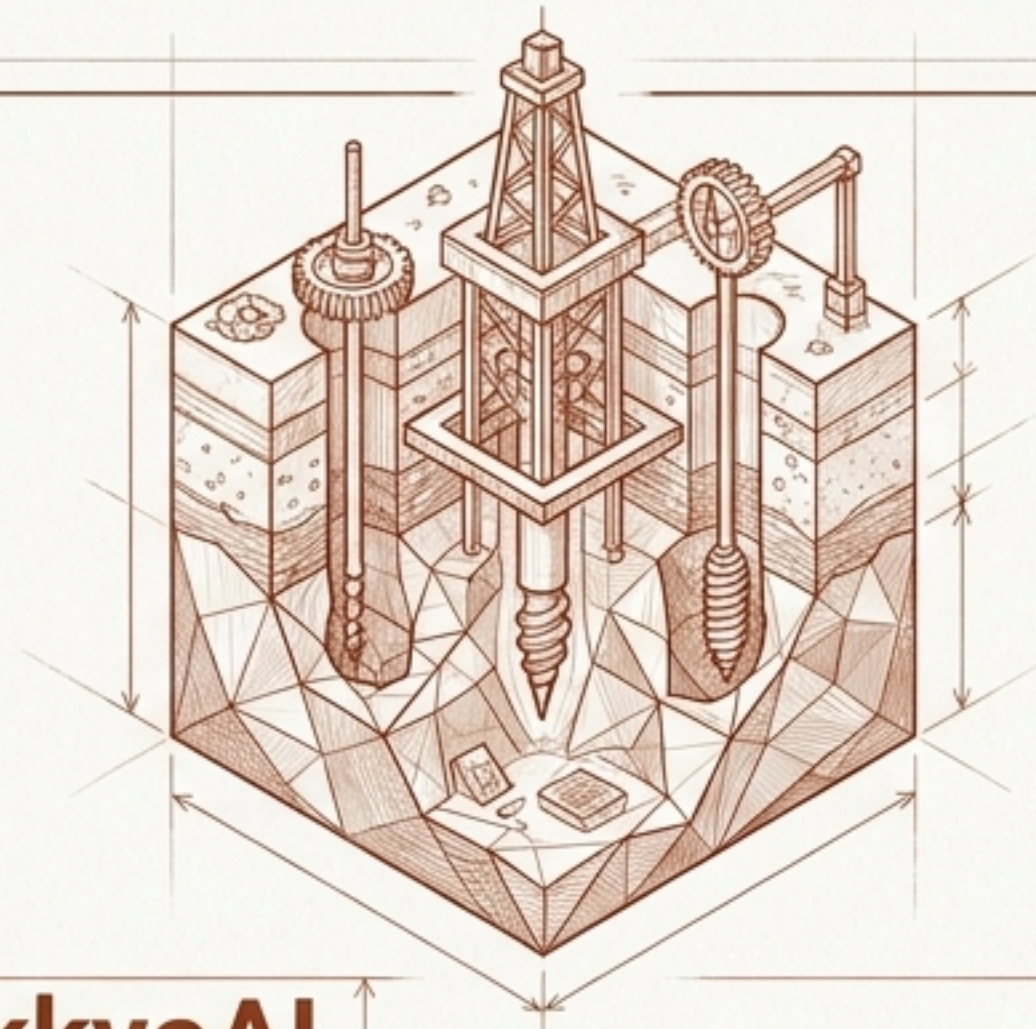
本レポートの中核:市場を牽引する2大AIエージェント「Patsnap」と「TokkyoAI」の深掘り比較。

2大AIエージェントの設計思想：外部環境向け（Outward）と内部発掘向け（Inward）



Patsnap

- コンセプト: The Outward Defender (グローバル・外部環境への接地)
- 中核思想: 世界の特許・技術文献を根拠に、検索・比較・評価を高速化する。
- ターゲット: 外部環境、競合、海外権利、FTOの確実な把握。
- 利用者: 大企業知財部、海外事業部、特許事務所。

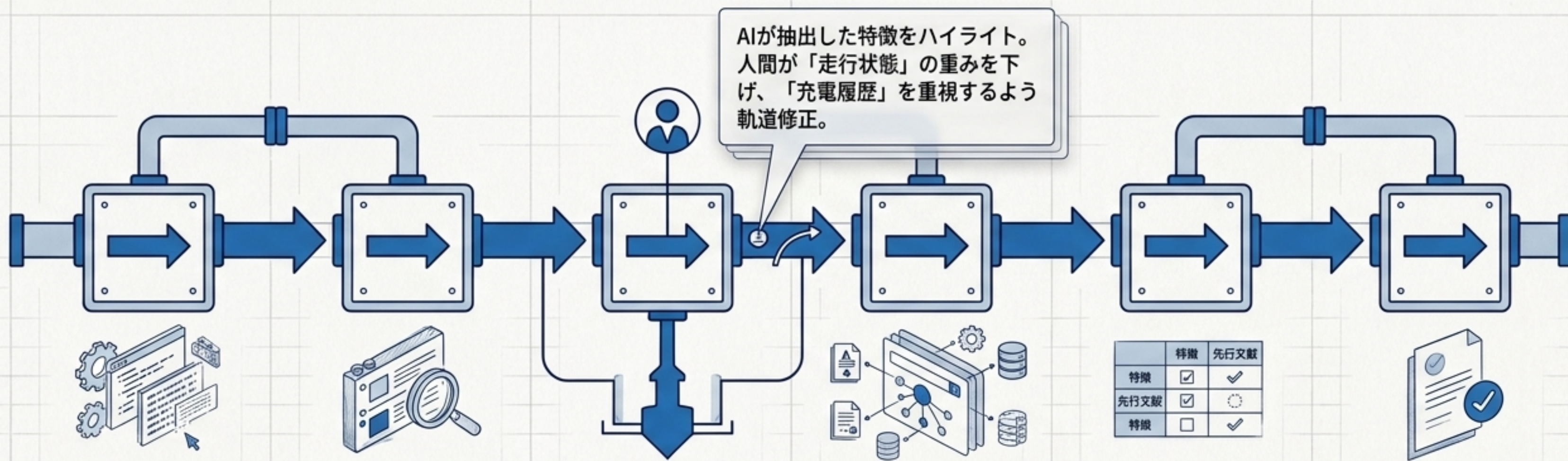


TokkyoAI

- コンセプト: The Inward Discoverer (ドメスティック・内部知見の発掘)
- 中核思想: 研究開発現場の未整理情報を、知財実務で扱える強固な文書へ変換する。
- ターゲット: 社内発明候補の掘り起こし、出願検討へのシームレスな接続。
- 利用者: 技術者、中小企業、大学、スタートアップ。

Patsnapの自律ワークフロー：根拠に基づく多段階グローバル調査

事例：EVバッテリーの予測冷却制御システムの新規性調査



Step 1: 入力理解

自然言語の技術案を要素分解（冷却液、ファン制御、劣化度など）。

Step 2: 特徴抽出

新規性判断のキー特徴（劣化度×急速充電履歴の併用）を特定。

Step 3: ユーザー確認

Step 4: 検索戦略

セマンティック、分類コード、引用を組み合わせた多段検索を自律実行。

Step 5: 先行技術比較

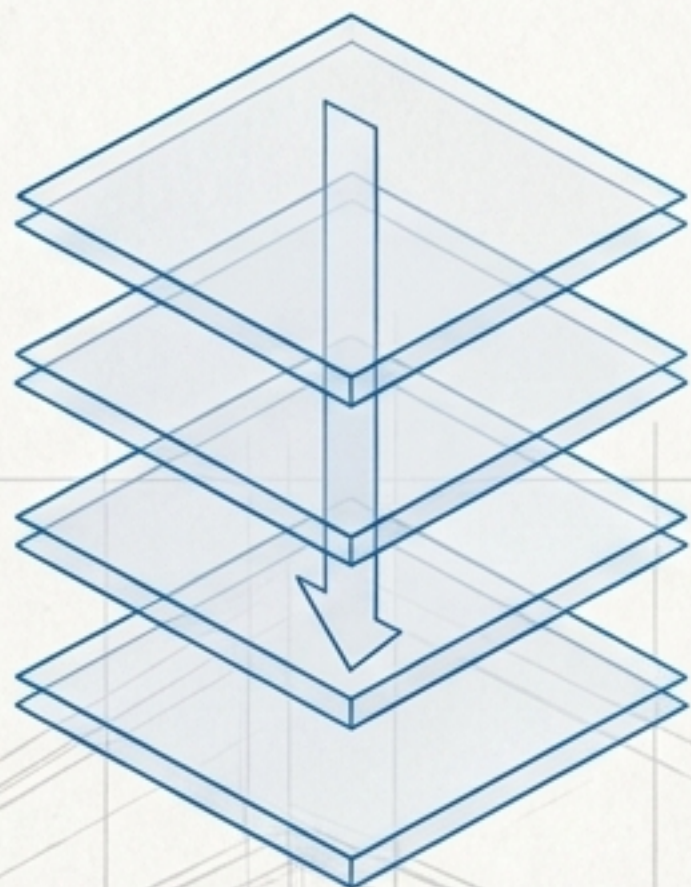
特徴ごとに先行文献の開示状況を完全・部分一致でマッピング。

Step 6: 結論生成

「局所温度予測抑制を具体化すれば差別化余地あり」と提言。

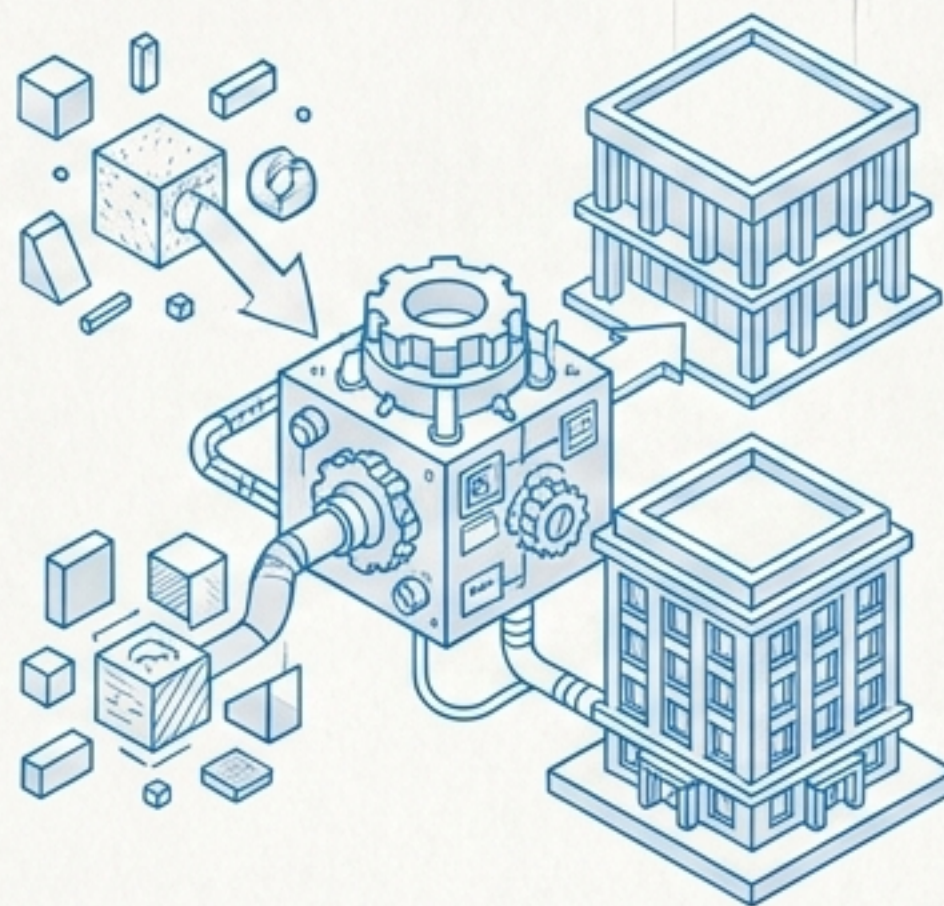
グローバル展開の防具： FTO（侵害予防）と特許ドラフト生成

FTO Search Agent



- Layer 1:
製品特徴の抽出
- Layer 2:
法域設定・法的ステータス
- Layer 3:
クレームマッピング
- Layer 4:
リスク分類（結論）

Patent Drafting Agent



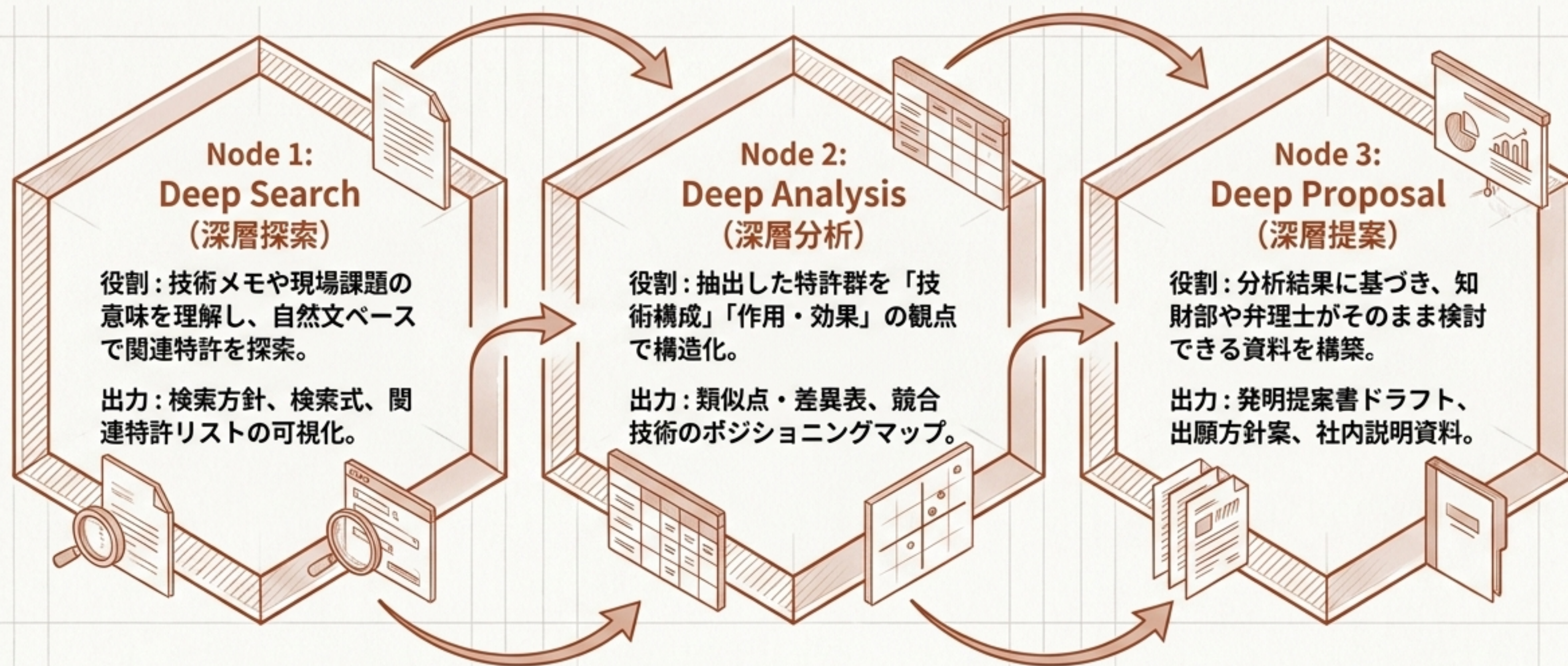
Input:
発明開示書 +
初期クレーム要件

Processing Core:
用語精緻化・管轄国
様式の適用

Output Layers:
明細書案、背景技術、
実施例、図面注釈の
構造化生成

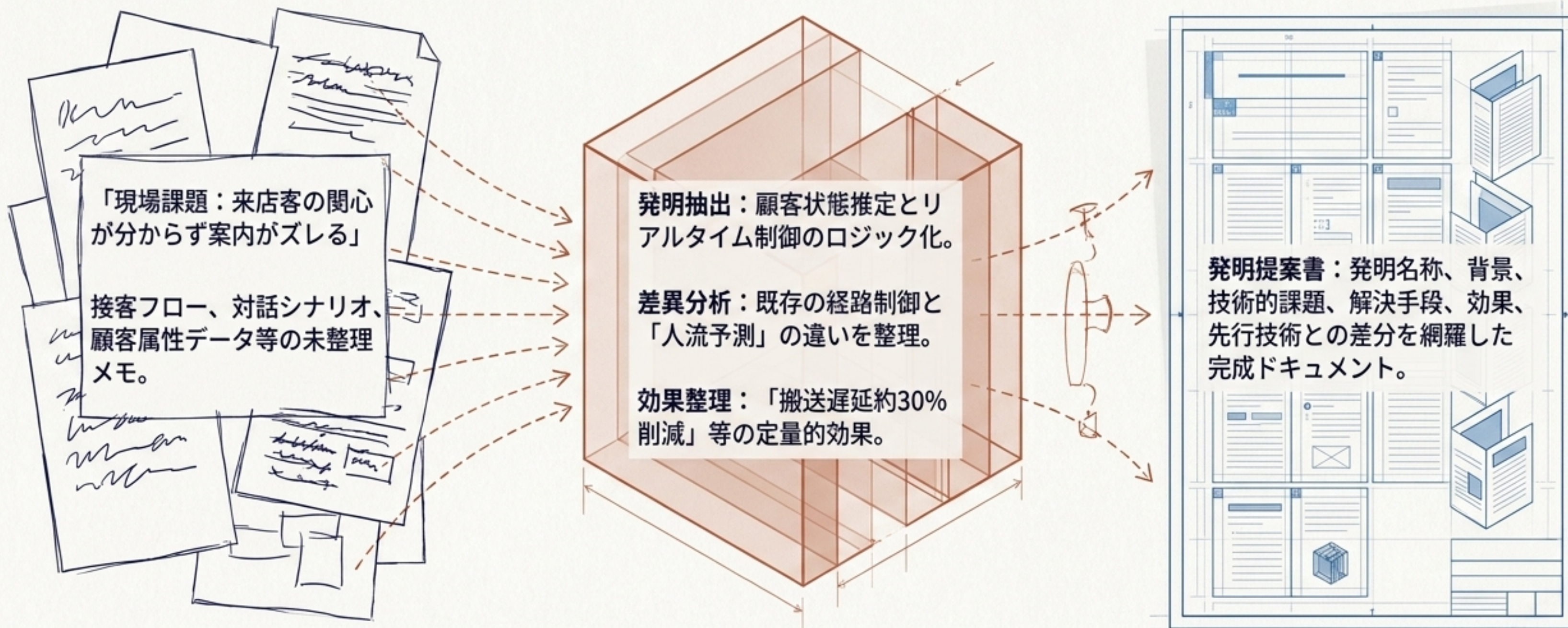
TokkyoAIのコグニティブ・エンジン：3段構えの「Deep Research」

単一AIではなく、複数AIが役割分担し思考プロセスを可視化するディープエージェント方式。


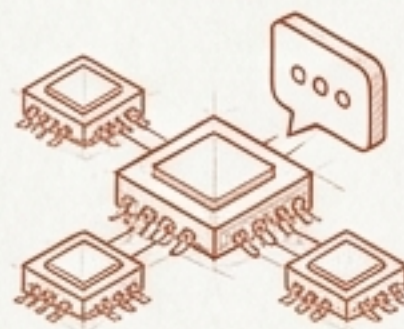
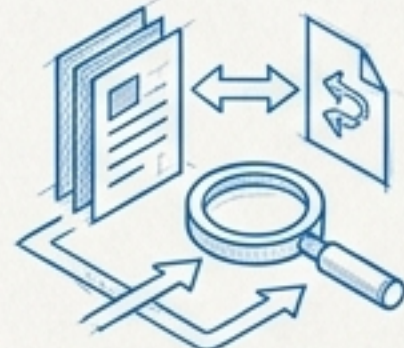
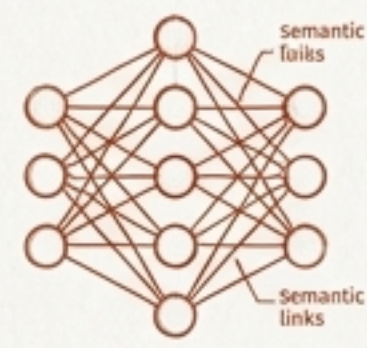

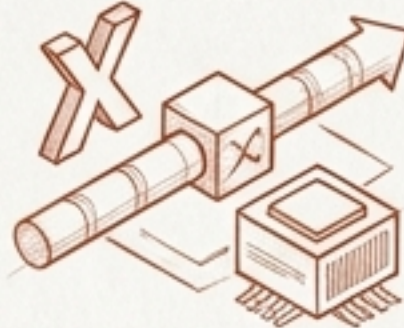


カオスから構造へ：未整理の現場課題から「強い発明」を抽出する

事例：商業施設向け接客ロボットの動線最適化






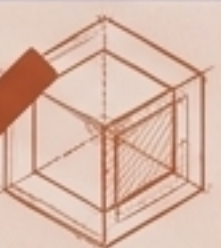

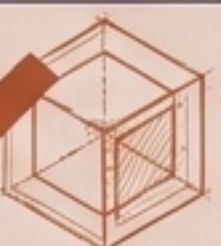




技術アーキテクチャの対比： 基盤モデルとデータ処理のアプローチ

	Patsnap	TokkyoAI
中核モデル	 <p>PatsnapGPT (特許・技術文献に特化した 独自訓練モデル)</p>	 <p>ChatGPT-4o等の生成AI + 特許データ</p>
検索技術	 <p>セマンティック、分類コード、 引用を組み合わせた複数戦略 (RAG/RATアーキテクチャ)</p>	 <p>自然言語の深い意味構造に基 づく自然文類似検索</p>
データ処理基盤	 <p>170ヶ国以上のグローバル特許・ 非特許文献の統合データベース</p>	 <p>独自ビッグデータ高速処理技術 「Xシステム」</p>

ユースケース別・最適エージェント診断表

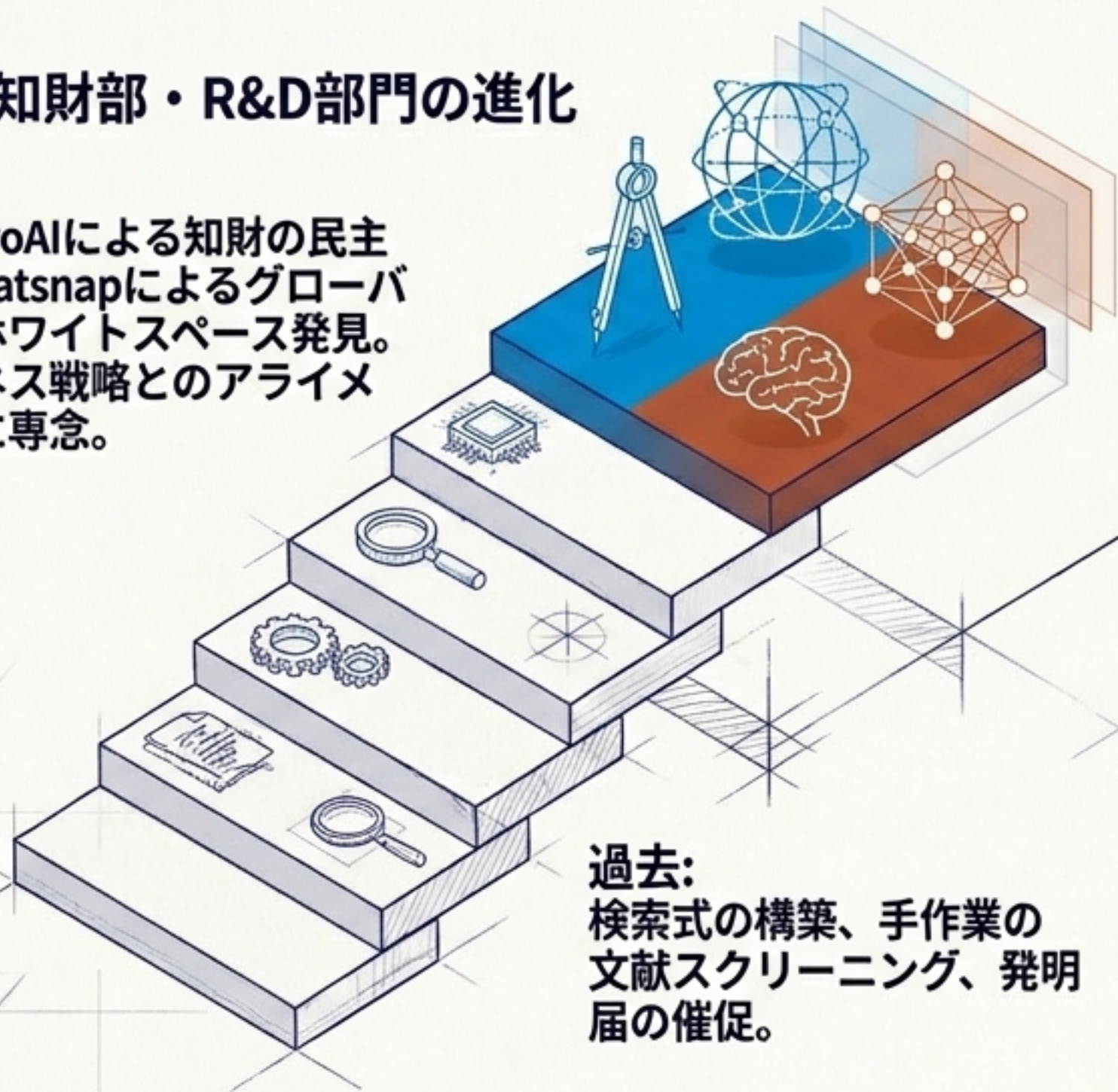


ユースケース		Patsnap	TokkyoAI	理由
グローバル新規性調査		✓ 	✗ 	多言語・多法域・非特許文献に強い。
グローバルFTO・侵害予防		✓ 	✗ 	クレームマッピングと法的ステータス評価の網羅性。
3	日本語の未整理メモからの発明抽出	✗ 	✓ 	現場の自然言語から特許的課題への変換に特化。
4	発明提案書・出願方針の作成	✓ 	✓ 	知財部・弁理士との初期相談の質を劇的に高めるフォーマット力。
5	海外出願ドラフト作成	✓ 	✗ 	USPTO等、各管轄の要件に準拠した構造化。

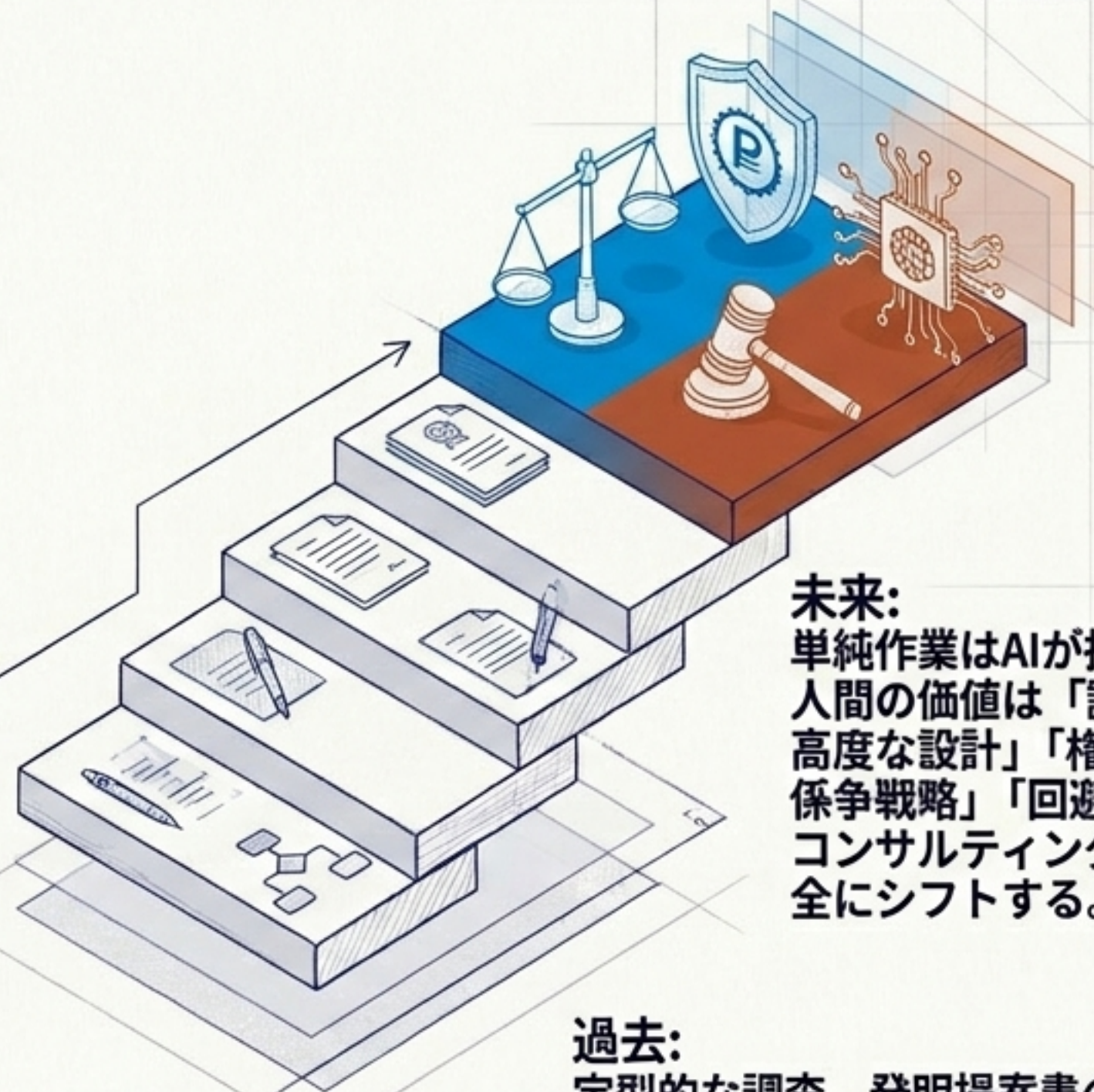
日本の知財実務への影響： 人間の役割はどう進化するか？

企業知財部・R&D部門の進化

未来:
TokkyoAIによる知財の民主化+Patsnapによるグローバルなホワイトスペース発見。ビジネス戦略とのアライメントに専念。



過去:
検索式の構築、手作業の文献スクリーニング、発明届の催促。



未来:
単純作業はAIが担い、人間の価値は「請求項の高度な設計」「権利化・係争戦略」「回避設計のコンサルティング」へ完全にシフトする。

過去:
定型的な調査、発明提案書の不足情報のヒアリング、一次ドラフト作成。

統合導入の最適解：「二段構え (Two-Tier Model)」アーキテクチャ

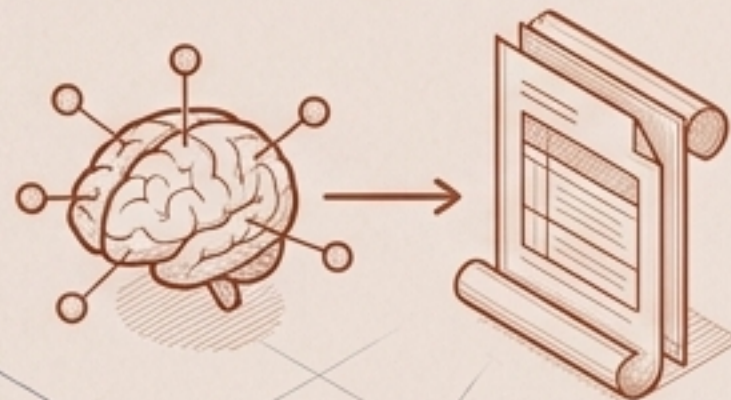
各々の強みを前工程と後工程で組み合わせる次世代知財体制。

発明の発掘と構造化 (TokkyoAI)

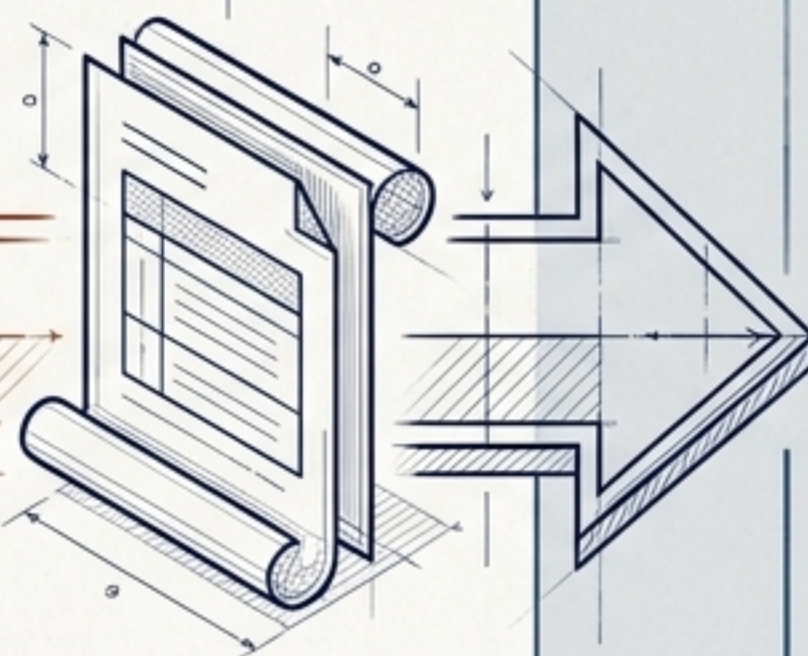
ターゲット：社内R&D、研究メモ、現場課題。



アクション：「Inward Discoverer」として、未整理情報から発明を抽出し、質の高い『発明提案書』を生成。



構造化された強固な「発明提案書・出願方針」がバトンとなる。

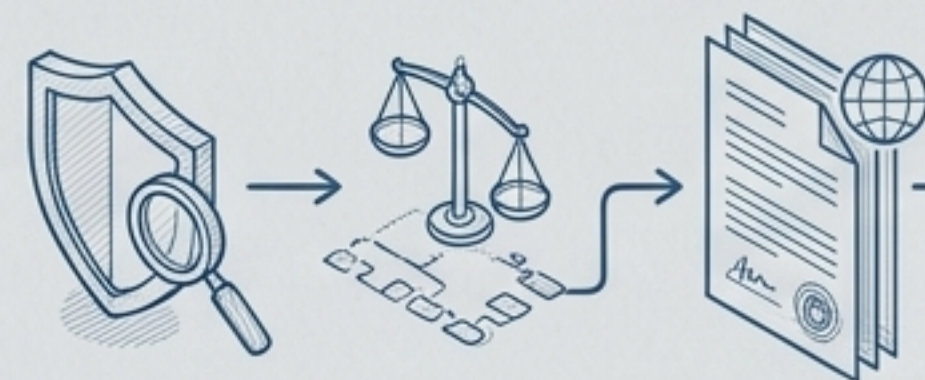


グローバル検証と権利化 (Patsnap)

ターゲット：グローバル市場、競合特許、海外出願。



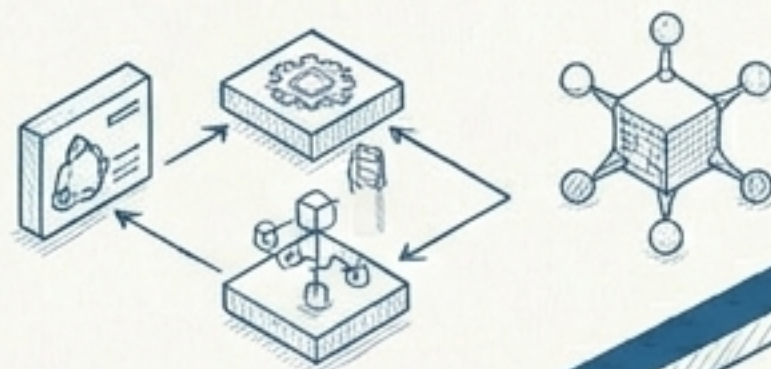
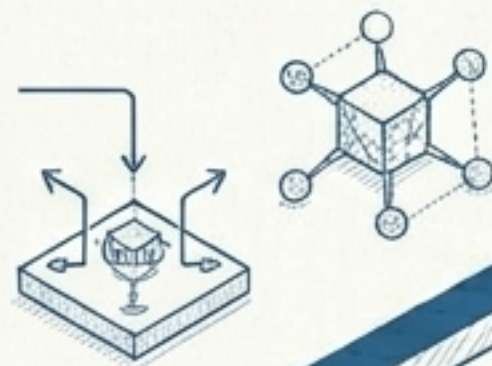
アクション：「Outward Defender」として、提案書に基づき精密な新規性調査、FTO検証、海外明細書ドラフトを自律実行。



次なる進化の軌跡： 拡張し続けるAIエージェントの未来

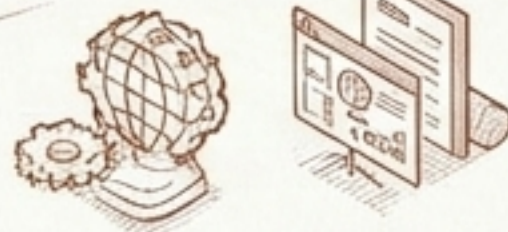
Patsnap: 「AI Inside」プラットフォームへ

- IP・R&D領域から、材料・ライフサイエンスなど専門エージェント群への拡張。
- API、MCPを通じ、企業の外部システムに溶け込む統合エコシステムの構築。



TokkyoAI: 究極の「思考パートナー」へ

- 調査の自動化を超え、出願すべきかの「知財判断」や「研究投資判断」を支援。
- 経営層への社内説明資料まで自律生成し、知財部門の戦略的プレゼンスを最大化。



AI時代の競争優位は、「ツールをどう使うか」から
「AIエージェントをどう組織に組み込むか」へ。